2025年度日系社会研修 コース概要

NO.	7
所管センター	北陸
分野	継承
研修コース名（日）	「日系アイデンティティ涵養・日系史教育教材作成」演習
受入人数	2
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2025年7月22日（火）
提案団体（日）	国立大学法人 金沢大学
提案団体 ウェブサイトアドレス	http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/ （日）, http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/ （英）
研修員必要資格	<p>必要資格：次のいずれかの形で日系文化継承教育に携わるか、今後携わる予定がある者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な希望教材制作テーマに関するアイデアを応募時点で有すること（最重要視する） 2. 現地日系協会や日本人会組織等が運営する機関において、日系人子弟を含む対象者に対する日系文化継承教育又はその教材制作に携わる者（今後携わる予定がある者も含む） 3. 所属機関や当該専門分野における中堅の人物であること（公的な第三者又は第三者機関による推薦を得るようにすること） 4. パソコン（OS不問）及び電子メール送受信、プレゼン能力、SNS等の基本操作が支障なくできること
研修員に必要な 実務経験年数	最終学歴修了後3年以上の実務経験
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N4
英語能力（選択）	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	「現地の中核となる日系文化継承教育者又は教師指導者」を対象に、研修員自らが日頃から抱える日系文化継承教育のための教材制作テーマに関する研修を行うとともに、日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などについて体験を交えて深く理解する。また、研修により得られた成果を発表・公表し、当該国の日系文化継承教育のために活用することを目指す。
期待される成果 （習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画・漫画・動画など、日本（特に金沢を含む北陸地方）だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集 ・ 教材制作に関わる各種スキル（制作、編集、管理・更新方法など）の修得 ・ 研修員の指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場視察を通じた教育技能のスキルアップ ・ 日本文化、日本史、現代日本の社会実情などについて、体験学習を交えた深い理解 ・ 研究成果のプレゼンテーション、あるいは研究レポートの日・英・西又はポ語での記述 ・ インターネットの活用により、修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元

<p>研修計画 (内容)</p>	<p>研修指導コーディネーターとして、国際日本研究センターの太田亨教授（専門は日本語・スペイン語・ポルトガル語間の対照言語学、および専門日本語教育学、及び留学生教育）が中心となって当たる。研修員候補者に対しては、受入れ申請が行われた段階から電子メール等を通じて希望研修計画の概要を問い、その実現可能性に関する試問を丁寧に行う。受入れが可能と判断された候補者とは、研究の具体的な目標と方法を詰めていき、本学到着後に最終的な研究計画を決定させる。</p> <p>研修は、以下の内容のものを想定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：日本文化概論、日本史、日本文化体験、日本社会概論、日本伝統芸能概論 2. 実習：日本文化・社会プログラム、日本伝統芸能演習、等 3. 見学：人間社会学域学校教育学類附属学校、放送大学、石川県を始めとした北陸各地の文化施設訪問（美術館、博物館、等）、（必要に応じて）研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行 4. 学会・セミナー・外部研修：（必要に応じて）研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討 <p>最終発表：学内で研修最終日に実施予定（閉講式も兼ねる）</p>
<p>本研修実施の意義 中南米日系社会への裨益効果</p>	<p>日本文化の伝統と歴史が色濃く残る石川県金沢市に立地した金沢大学では、2002年度から「文化社会学習プログラム」及び「いしかわ金沢学」が実施され、現在は更に発展・進化した「日本文化・社会学習プログラム」として、国際日本研究センターで運営されている。</p> <p>同センターでは、日頃から日本語教育あるいは日本文化教育の教材作成ノウハウを通じて教材制作指導が行える体制を有するほか、教授スタッフの中にスペイン語やポルトガル語を解する教員が複数いることも大きな強みである。</p> <p>これら人的・教育的両面のリソースを生かし、日系アイデンティティの継承教育に相応ふさわしい、視聴覚を中心とした教材制作研修の場を対象となる日系研修員に提供できるものと確信する。</p> <p>また、日系社会への裨益効果という点においては、研修成果を必ず電子媒体又は出版物として公表するよう指導している。これまでの実績で言うと、「YouTubeによる日本人の生の自己紹介教材ビデオの制作」（2013年度、メキシコ研修員）、「ポルトガル語による金沢紹介サイトの開設」（2014年度、ブラジル研修員）、「Android OS対応の和太鼓指導用アプリの開発」（2015年度、ブラジル研修員）、「日本のファッションに関する単行本上梓へ向けた最新資料の収集と公開」（2016年度、ブラジル研修員）、「日系人のアイデンティティの形成と日本人移民の歴史についての教材の精緻化」（2018年度、ブラジル研修員）、「石川県の歴史と文化をポルトガル語で紹介した創作漫画『ヒロシの冒険』制作プロジェクト」（2019年度、ブラジル研修員）、「[2020~21年度はコロナ禍で受入れ無し]」、「日本の中学校での部活動調査」（2022年度、ブラジル研修員）、「日本の祭り運営方法修得」（2023年度、ブラジル研修員）があり、着実に実績と成果があがってきている。</p> <p>特記すべきは、2014年度研修員だった佐藤フランシスコ紀行氏と2016年度研修員だった佐藤クリステアネ阿久根氏夫妻が共同で、2017年4月からブラジル三重県人会を拠点として行なっている「日本の歴史」コースの開講であろう。概要はJICAのホームページ等ですでに掲載されたとおりで（https://www.jica.go.jp/yokohama/topics/2017/170411_1.html）、本研修受入れ担当の太田亨教授がYouTubeを使って「日本留学」に関する質問に答えたり、日本史を専門とする山本洋教授（国際日本研究センター）が「日本の近世史」の講義にビデオ参加したりして協力を行ったが、同講座はブラジルで人気を博し、2022年度も継続して開講されている。また、2022年3月には、元JICA派遣研修員がブラジルで累計1万人に達したことを記念して『Ichimannin - Depoimentos de ex-bolsistas da JICA』がサンパウロ市で刊行されて本研修を受講した元研修員の研修内容も掲載されていること、また2019年度研修員の Gustavo Tatsumi Koki 氏の漫画作品『ヒロシの冒険』が2022年末にネット販売されたことを付け加える。</p>
<p>応募希望者への特記事項</p>	<p>応募にあたっては、研修指導コーディネートを担当する太田亨・国際日本研究センター教授にメールで連絡を取り、研修計画を英語で提示し受入れ承諾を事前に得ておくことを大前提とする。</p>